ひろしま美術館コレクション

日本近代洋画の名作展

45人の巨匠、一挙集結——

2022年2月11日(金・祝)－3月28日(月)
※会期中無休

黒田清輝《白き着物を着せる西洋婦人》明治25年(1892)

開館時間：午前9時30分～午後5時30分(入館は午後5時まで)
入 館 料：一般1,000円(4枚セット券3,000円)／大学生800円／高校生500円／中学生以下無料
主　　催：公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
後　　援：中日新聞社、朝日新聞社、読売新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送
企画協力：公益財団法人ひろしま美術館、青幻舎プロモーション

ご来館の際は、マスクの着用等、新型コロナウイルス感染症の予防にご協力下さい。

関連イベント　記念講演会

日　時：2月27日(日)　午後2時～午後3時30分
演　題：「ひろしま美術館の日本洋画コレクションについて」
講　師：古谷可由(公益財団法人ひろしま美術館・学芸部長)
参加料：無料(要入館券)　当日受付、先着50名
※関連イベントは諸事情により、中止になる可能性がございます

paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム
〒510-1245 三重県三重郡菰野町大羽根園松ヶ枝町21-6　Tel.059-391-1088　Fax.059-391-1077
E-mail office@paramitamuseum.com　https://www.paramitamuseum.com
Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita_muse

ひろしま美術館コレクション

日本近代洋画の名作展

45人の巨匠、一挙集結！

ひろしま美術館は、印象派を中心としたフランス近代絵画や日本近代絵画を多数所蔵し、紹介しています。今回は、ひろしま美術館が誇るコレクションから、厳選した日本近代洋画の名作約80点を展観し、その流れをたどります。

日本の近代洋画は、明治期における西洋美術との本格的な出会いにより華開き、以降の大正、昭和にかけて、日本人が西洋の技法で描くことの意味や、単なる西洋の模倣ではない日本の洋画とは何かを模索しながら、様々な展開をみせました。

本展を通して、洋画の草創期を牽引した浅井忠や黒田清輝をはじめ、明治浪漫主義を代表する青木繁や藤島武二、大正期の個性として異彩を放った岸田劉生、昭和期に黄金時代を築いた安井曾太郎と梅原龍三郎など、45人の巨匠が描いた珠玉の名画をお楽しみください。

作家名

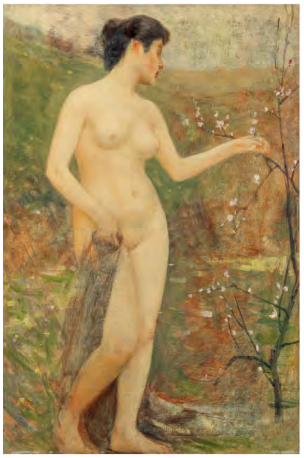
浅井忠・小山正太郎・ラグーザ玉・黒田清輝・藤島武二・岡田三郎助・満谷国四郎・鹿子木孟郎・和田英作・中川八郎・熊谷守一・山下新太郎・青木繁・坂本繁二郎・南薫造・正宗得三郎・黒田重太郎・小出楢重・小絲源太郎・安井曾太郎・小林和作・梅原龍三郎・岸田劉生・須田国太郎・児島善三郎・中川一政・木下孝則・中村研一・古賀春江・鈴木信太郎・前田寛治・林武・小山敬三・東郷青児・中村琢二・佐伯祐三・岡鹿之助・野口弥太郎・牛島憲之・向井潤吉・荻須高徳・小磯良平・海老原喜之助・宮本三郎・鴨居玲

安井曾太郎《画室》大正15年(1926)

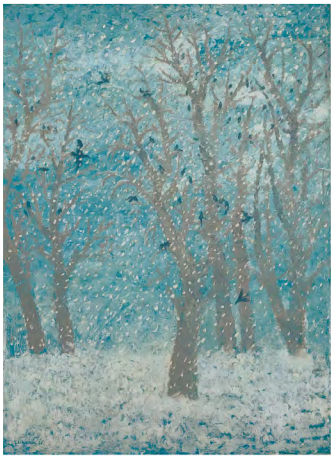
佐伯祐三《ロカション・ド・ヴォワチュール》大正14年(1925)

鴨居玲《私の村の酔っぱらい(三上戸)》昭和48年(1973)頃

岸田劉生《支那服を着た妹照子像》大正10年(1921)



藤島武二《桃花裸婦》明治35年(1902)頃



海老原喜之助《群鳥(枯木)》昭和6年(1931)

次回展示のお知らせ

2022.4.2土 ▶6.5日 ※会期中無休　**平山郁夫　遥かな道**

《仏教伝来》で日本画壇の一員となった平山郁夫は、日本文化の源流を求めてシルクロードを取材し多くの作品を描いてきました。その人生をエッセイと共に描いた《道遥かシリーズ》、ライフワークとなった《玄奘三蔵院の大唐西域壁画》の大下図、世界が認める文化としての京都を描いた《平成の洛中洛外シリーズ》、そして限りない郷土愛を注いだ《しまなみ海道シリーズ》で、平山郁夫の画業を振り返ります。

■お車をご利用の場合／○東名阪「四日市IC」より湯の山温泉方面へ約6.5km ○新名神「菰野IC」より約4km　■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合／近鉄「四日市駅」より近鉄湯の山線にて約25分、「大羽根園駅」下車、湯の山温泉方面へ300m　■全館バリアフリー、車椅子常備

paramitamuseum

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム　〒510-1245 三重県三重郡菰野町大羽根園松ヶ枝町21-6
Tel.059-391-1088　Fax.059-391-1077　E-mail office@paramitamuseum.com
https://www.paramitamuseum.com　Facebook www.facebook.com/paramitamuseum　Twitter @paramita_muse